


# 漱石の散歩道

## 1 誕生之地 新宿区指定史跡

新宿区喜久井町1  
(当時：牛込馬場下横町)

生誕100年を記念して建てられた石碑(弟子の安倍能成の筆による)。


 黒御影石の石碑



## 2 夏目坂

新宿区喜久井町  
(誕生地の前)

馬場下から南東へ上る坂。漱石の父・直克が命名。


 標柱を入れて撮る(車の少ない瞬間がシャッターチャンス)



## 3 小倉屋 (誕生地の隣り)

新宿区馬場下町3

後に赤穂浪士となる中山安兵衛がこの升酒を引っかけて助太刀に向かったという酒屋さん。裏手に漱石の生家があった。

 かつて漱石の生家もあった小倉屋のある一画


散策メモ▶写真を撮ったり訪ねるときは一言声をかけよう。



## 4 誓閑寺

新宿区喜久井町61

『硝子戸の中』で「西閑寺」、『二百十日』で「寒磐寺」として登場するお寺。

 区内最古の梵鐘

散策メモ▶ただし、現存している鐘は小説内で書かれている「鉦」とは別のもの。



## 8 和良店亭

(当時：牛込区肴町)

薬店(地藏坂の別名)にあった色物講談を得意とする寄席で、落語好きの漱石が足繁く通った。神楽坂は当時5つの寄席が並び、東京の芸能の中心だった。



## 9 田原屋


新宿区神楽坂5-35  
(毘沙門天の西)

菊池寛や佐藤春夫、永井荷風らも通った牛鍋屋。のちに果実屋となり、大正時代初めに洋食屋になったが、平成14年(2002)に閉店。

## 10 善国寺(毘沙門天)

新宿区神楽坂5-36

「毘沙門さま」の愛称で親しまれ、縁日の賑わいは『坊っちゃん』の中にも出てくる。

 朱塗りの建物が目にあざやかな境内


散策メモ▶毎月5のつく日に開かれていた縁日は現在、7月末のほおづき市のみ開かれている。



## 11 相馬屋

新宿区神楽坂5-5

地藏坂の入り口付近にある文具店。漱石はこの原稿用紙を愛用した。


 神楽坂に面した店構え(現在はビルの1階)



## 5 終焉之地(漱石山房) 新宿区指定史跡

新宿区早稲田南町7「新宿区立漱石公園」  
(当時：牛込区早稲田南町7番地)

明治40年(1907)9月から大正5年(1916)に亡くなるまでを過ごした家があった場所。富永直樹作の漱石の胸像と「猫塚」がある。

 胸像と猫塚



## 6 帰国後住んだ家


新宿区矢来町3  
(当時：牛込区矢来町三中の丸)

明治36年(1903)1月英国より帰国後、妻鏡子の実家中根家のはなれに住んだ。留守宅の困窮ぶりはひどく、漱石を驚かせたという。

## 7 神楽坂

神楽坂1~6丁目


甲武鉄道牛込停車場の開設で発展、山の手随一の繁華街として賑わった。多くの作品に登場し、お見合いした漱石と鏡子夫人がすれ違ったのも神楽坂だった。

 神楽坂の情緒あふれる路地

## 12 東京物理学校 (現東京理科大学)

新宿区神楽坂1-3

『坊っちゃん』は東京物理学校出という設定。明治39年に建築された校舎が復元され、現在近代科学資料館として公開されている。

 復元された資料館建物

散策メモ▶館内では「計算機の歴史」を中心とした興味深い展示を見学することができる。(入館無料)  
※開館日・時間については、資料館へ直接お問い合わせ下さい。03-5228-8224



-  トイレ
-  休憩場所
-  撮影ポイント